



社会を明るくする運動

校長 伊藤 栄司

10月29日に行われた、「第74回“社会を明るくする運動”安全・安心まちづくり靖国通りパレード」に本校のマーチングバンド（5・6年生）が参加しました。校庭で出発式を行った後、錦華通り、靖国通り、内堀通りと演奏をしながら歩く約1.2kmのパレードでした。今年度は、明治大学のチアリーディング部もパレードに加わり、賑やかに実施することができました。沿道で応援して下さった皆様、ありがとうございました。

地域の力

「社会を明るくする運動」は千代田区推進委員会（樋口高顕委員長）のもと、千代田区内の保護司会、更生保護女性会、民生・児童委員協議会、神田警察署、各町会、保護会、千代田区長が参加し実施しています。また、今回の靖国通りパレードだけでなくミニ集会を行うなど「犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ」をテーマに年間を通じて行っている運動です。

始まりは、昭和24年7月1日犯罪者予防更生法（現在は廃止）の施行にさかのぼります。戦後の荒廃した中、街にあふれた身寄りのない子供たちの将来を危惧していた東京・銀座の商店街の有志が、同年7月13日から1週間にわたって、自発的に「犯罪者予防更生法実施記念フェア（銀座フェア）」を開催したことが、この運動のはじまりとされています。

この銀座フェアに習って本校のマーチングバンドパレードも以前は7月に行っていましたが、暑さの影響を考え数年前から10月末に実施するようになりました。

原胤昭（はら・たねあき）と東京出獄人保護所

さらに歴史をさかのぼると、江戸時代神保町に住んでいた元南町奉行所の与力の原胤昭（はら・たねあき）が、1897年に東京出獄人保護所を開設し更生保護活動に尽力していました。出所後、孤立しやすい人たちをどう更生させ再犯を防ぐかを常に考え、自宅に保護施設をつくり、お墓の面倒まで見たと言われていました。保護した出所者の総数は1万人以上、偉大なる先人の足跡の上に戦後、法制化されたのが保護司制度です。

社会を良くするために

神田神保町2丁目には原胤昭の業績が記された案内板が立てられています。立ち直ろうとする人たちに寄り添い・支えることによって再び犯罪が起きることを防ぎ、犯罪や非行のない社会をつくる活動を120年以上も前からこの地で行われていたことに畏敬の念を抱かずにはられません。また、千代田区保護司会は昨年度設立70周年を迎える等、長い間人のため、町のためにボランティアとして活動して下さる方々がたくさんいらっしゃることも、町の安心・安全につながっていると改めて感じました。

お茶の水小学校の子どもたちが社会を明るくする運動に参加し、「町のチカラ」の一つとして演奏する機会を得られたことに厚く御礼申し上げます。



原胤昭、出獄人保護事業を始める

設置場所：神田神保町二丁目7番地先 区道植栽帯内

元南町奉行所の与力の原胤昭は、1897年この地に「東京出獄人保護所」を開設し、出獄人保護の社会事業に尽力。同所は、1903年現在の神田須田町に移転した。

（区ホームページより）